
～ 俺と異世界転生 ～

WAIZU

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺と異世界転生

【Nコード】

N81880

【作者名】

WAIZU

【あらすじ】

少年を庇い死んだ荒神鍵は神に能力を授けられ別の世界に転生させられた・・・

そこで彼はどう生きていくのか・・・

僕っ子なヒロインと鍵がおりなす・・・主人公最強系転生もの！

今静かに始まる！

基本コメディーたまにコメディー

ゝ 俺と神（笑）と ゝ（前書き）

観覧ありがとうございます。

しょーじょ作ですがよろしくです。

ゝ 俺と神（笑）と ゝ

オッス！オラ、ごk・・・なんでもない。

俺の名前は荒神鍵とかいてアラガミケンだ！まだピッチピチの高校2年生だ！ちなみに彼女は募集中！

さっきまではたしか友達とあるいてたんだが・・・何故か今、真っ白な世界にいるんだw

~~~~ちよつと回想だZE ~~~~~

いつものとおり校門で不良に絡まれ街の裏路地につれていかれた俺は、そこでちよつとOHANASHI もといボコボコにしたんだ。

自慢じゃないが喧嘩はつよいんだZE？つとそんなことをいつてる場合じゃない。

俺は急いで家に向かおうとした。いい子は寄り道しないんだよ？w  
まあ、そこで事がおこつたらしいね。

「ふふんふんふんふん♪アハハン♪」とお風呂に入るときにいう「あれ」をいいながら信号にひっかかったんだ。

・・・おいおい、坊主がボールを追いかけて信号を渡ろうとしてるじゃねえか！

まだ、赤信号だぞ？

そりゃあ車はとまらないよね？だって車の信号のほうは青だし・・・

と、いうことで「坊主あぶねえええええ」「キキキイイイ・・・ドンー！」

坊主は助けられた・・・・・よかったよかつt・・・・・もう・・・・・ムリポ

・・・・・最後に俺がみたのは坊主の泣き顔と自分から流れる大量の血だった・・・・・

~~~~~回想終了~~~~~

そつえばだな、回想中に気づいたんだが俺の後ろに誰がいるんだが・・・・・

3 / 2 / 1で振り向くからな！ちよつとまってる！俺だって怖いもんは怖いんだ！

3 / 2 / 1・・・・・バツ！ok、振り向いた！目瞋ってるけど・・・

開けてみた・・・・・そこには・・・・・サダk・・・・・いや絶世（？）の金髪美少女がたっていた・・・

なぜ、くえすちよん かというと・・・・・目が死んでる・・・・・こいつとは仲良くなれそうだ！！

とりあえず、話しかけてみた

「おい、その美少女ここはどこか分かるか？」

照れている・・・・・美少女は口を開いた

「私にいつてるの？」

「他に誰がいる？」

「まあ・・・・・そうね（微笑）ここはあなたたち人間でいう天国ってとこね」

「おk、把握で俺はやっぱり死んだのか？」

「ええ、死んだわね」

「M A Z I D E？」

「で、あなたに異世界にいつてほしいんだけど」

「はい？」

この子頭おかしいんじゃないか？

「おかしくなんてないわよ、まあ死なないように能力を四つつけてあげるわ」

「ちなみにどんな世界なんだ？」

「えと、剣と魔法の世界？まあR P Gみたいなところね、魔物もいるわよ？」

「f m f m、まじでいかなきゃダ「ダメ」

言葉を遮られた……

「分かったよ……能力四つだな……じゃあまず身体強化かな」

「どれくらいにしておけばいい？」

「そうだな……まあできるだけ強くでw」

「分かったわ」

「二つ目はあゝそうだな……魔力無限？がいい」

「了解ッ！（……）」

いい笑顔だな……

「三つ目は創造能力な、創造したものが具現化するやつw」

これで武器とかはなんとかなるだろう……

「世界を壊さないでね？」

邪悪な笑みをしていたため注意されちゃったテヘッ

「後は……今までの記憶を残しておくことでおk！w」

「それは、元々だったけど……」

なん・・・・・・・・だと！

「じゃあ、うーむ・・・・・・・・なにがいいかな・・・・・・・・不老不死？でも死にたくなったら自分で死ねるやつ」

「おkよ」

おkされた・・・・・・・・どこが不老不死が分かったもんじゃない・・・

「後、顔とか性別はどうする？」

「あーまあこのままでいいよ」

俺の顔のスペックは上の中から上くらいだし（いわれた事があるだけだが・・・

「じゃああつちの世界に送るわね？」

「はいはい」

「世界名トレビゾ・・・・・・・・転移・・・・・・・・！！」

この日より俺の日常は大きく崩れることになる・・・・・・・・

ゝ 俺と神（笑）と ゝ（後書き）

どうでしたでしょうか？

感想や意見がいただけるとうれしいです

く俺とヒロイン（笑）とく（前書き）

どうもく作者です！

週一って書いたけど出来次第更新していくよ！

今回の話はヒロイン（笑）が登場！

俺とヒロイン（笑）と

えと、だなとりあえずいえる事がある．．．いやこれをいわないでなにをいう！

「ここはどこだあああああ！！！」

なにここ！？だつてさつきからすんげえーこええ声するしwww
ぐるるwwdamaare 怖いじゃねえか

しかも、だよ？まあー広くて木々がたくさんあるね．．．うん．

．．．

「森．．．かな？」

まあ、ここまで広いし、森でいいだろう。

「まあ、探索でもしてみ」「きゃあああああ！！！」

．．．叫び声が聞こえたね．．．

さて、俺の目の前に選択肢が

？無視

？無視

？無視

？とりあえずいつてみる

「まあー妥当にいつて？？が無難だが．．．」

死にたくないしねwだが．．．

あいあむあちゃれんじゃー

俺は叫び声がある方向に走り出した．．．

く叫び声サイドく

「きゃあああ！！！」

お父さん、お母さん、．．．僕はここで死ぬかもしれません。
てか死にます。

不吉なフラグを立ててしまっていた．．．
目の前には猿のような．．．まあぶっちゃけ．．．モンハ
のコンＯみたいなやつが5、6匹いる。

こいつらの名前はヤーという魔獣だ．．．厚い皮に覆われて
おり魔法、肉弾戦共にダメージが通りにくい．．．やっかいな敵
だ。

．
ちなみに僕は腰が抜けて立てない状態だ．．．うえーん．．．

．
ヤーは攻撃を仕掛けた．．．

謎の子に30のダメージ。

「あうあうあう痛い．．．」

謎の子の攻撃

謎の子は祈っている．．．

「助かりますように ミ」

ヤーの攻撃．．．会心の一撃！

謎の子に50のダメージ．．．

謎の子は死にかけている．．．

「あうあう．．．」

ヤーの攻g「@**／！」

キー

く鍵君サイドく

「そこまでだ！」

俺は声を荒げていった……

だが、ヤーに言葉が伝わるはずもなく……

ヤ一の攻撃！

謎の子に0のダメージ・・・

攻撃を仕掛けようとしていた魔獣を瞬殺した

「
・
・
・
・
・
え？
」

思わず目を背ける

いやーおかしいなー

目を向けてみた……おかしい……

「なんで木を倒しながら何十mも進んでるんだよー……!!!!」

俺はそう叫んでいた……

神様・・・ちよつと O H A N A S H I しょうか！

「なに？眠いんだけど？」

頭に言葉が伝わる・・・

「話せたのか・・・ちよつと俺身体能力強すぎねえか？」

「まあ大体そっちの世界で一番強い魔獣の3倍くらいね……」

それwwチートすぎねえwwwwwwwwwwwwwwww?

おっとそろそろ目の前にいる……「美少女」を助けるか……

•

美少女サイド

なんか……助けられたらいい！

うん……これからは困ったときは神頼みね

僕は助けてくれた人を見て………呆然とした………

こんな……つこんな……こんなかつこいいひと……み

たことない！！

髪の色は黒！顔立ちは最高！これは・・・濡れる！

僕は話しかける・・・

「あの、ありがとう！僕、レナっていいいます」

「&/”\$&%」

え？聞いたことのない言葉を使う・・・

幸い、さっきの一匹を倒したら魔獣は全部逃げていったのでなんとか立てた・・・死にかけただけど・・・

それでも僕は魔法使いだ！翻訳魔法くらいはできる・・・！

「彼の言葉を訳せ！プギ！」

これで話せるはず・・・

「だいすきだあああああ！！！」

f m・・・この人は言葉がわからないことを良しとして・・・なにをいつてるんだ？馬鹿なの？死ぬの？

まてまて・・・この人は命の恩人、恩人・・・こんな人に助けられたのか・・・はあ・・・

まてよ・・・！ちよつと驚かしてやるか・・・フヒヒw

「馬鹿なの？死ぬの？」

おっと、驚かせようと思ったら本音がでちゃったよ てへっ

「うおお！言葉が話せてる！感激だ！美少女と話せるなんて」

僕は顔を赤くする・・・

「美少女なんて・・・照れますノノノ」

う、うれしくなんてないんだからねっ！

男は話す・・・

「んと・・・名前の紹介しよっか！俺の名前は荒神鍵、キーって読んでくれ！」

キー君ね、はいはい・・・私は心のメモにしっかり書き込んだ・・・

「僕の名前はレナ＝フォルス！なんともよんでいいよ！」

「じゃあレナって呼ぶ！」

「うん、わかった」

「とりあえず、怪我の治療するから落ち着ける場所にいこう」

僕は一瞬貞操のことを考えたがキー君なら大丈夫だろう……多分

「あっちの方向に河辺があつたよ！」

僕は指をさしながら言う

「じゃあそつちいこうか……レナw」

正直いつて恥ずかしい……まあいいや

こうして、僕たち二人は河辺の方へと向かって言った。

「俺とヒロイン（笑）」と「（後書き）」

どうでしたか？

これから週一ペースくらいでがんばる！

ゝ俺と皇女（笑）とゝ（前書き）

実はヒロインは・・・・・・・・

「俺と皇女（笑）」と

（キー side）

俺はレナに異世界から来たことを教えた。

最初は痛い子を見る目でみていたが真剣だということがわかってもらえたらしくこの世界のことを教えてもらえた。

まあ、神のいったように本当に魔法が使える世界らしい・・・戦争などもあるらしく、そこでは主に遠距離などの場合魔法、近距離の場合は武器主体で戦うそうだ。
ちなみに魔法には、属性があるらしく基本的に火、水、風、土、闇、光そして精霊術などがあるらしい。

大きな国のことも教えてもらえた！！
ちょうどこの森を中心として東西南北の4国が大国らしい
東のエデン 西のレイブズ 南のクロム 北のラハク の4大国
さえ覚えていればあまり困らないらしい。

通貨は円にしてみると大体 竜金貨＝10万（これはあまり使うことが少ないらしい） 金＝1万 銀＝1000 銅＝100 になるんだってさ（当社比）

話は変わるが今俺たちはどんな状態かというと。。。。

「どこの国にこんなかなー」

「僕はいったん家にもどりたいので行く場所もないのでしたら僕の家に行きませんか？」

「・・・と、まあこんな状態だ・・・」

俺は別に行く場所もないので

「迷惑じゃないなら行きたいかな．．．．」と遠慮気味に答えたのだが内心は．．．．

内心「それwwwなんてエロゲww?」状態だ!

「一応命の恩人だからね(苦笑)見捨てるわけにもいかないでしょ?」

ああ．．．俺は．．．おしとやかな子が好きだったんだが．．．僕っ娘もいいね!．．．感傷に浸っていた

「じゃあどこの国に行くの?」

「東のエデンだね」

「分かった。」

と、いうことでエデンに行くことに決まった。

やべwww創造能力のこと話してねえwww

まあ、いつかwww

レナside

この男はなんなんだろう．．．．

そう思っていたが彼の説明を聞いてなぜだかすぐに納得してしまった．．．．

いや、無理やり納得させた．．．．だってそうじゃないと彼の強さはおかしすぎるんだもん．．．．

異世界から来たのなら体のつくりなどが違っても普通だろう．．．．

しかし、彼に聞いた一言で僕は．．．．

「君の世界だとみんな君みたいに強いのか?」

「いや、俺の世界の国では戦争もなにもないぞ？」

僕はこの一言によって……とてもショックを受けた……

僕は顔を引きつらせながらも「へ、へえーそうなんだ……」

この一言をいって黙ってしまった……

くそれからしばらくしてからく

しばらくすると彼が独り言のようにいった

「どこの国に اینجاかな」

彼は行くところも仕える国もないそうなので僕の家を招くことにした

多分、彼はまだ僕に隠し事をしているのだろう……

そうでもなければ戦争もない国であんなに強い意味がないのだから……

くくくくくそれから5日後くくくく

くキー sideく

俺とレナは2日あるいて森を抜けた

幸い、レナは食べれるものと食べられないものが見分けられたのでそのころにはかなりの食材があった！

そして森を抜けて三日間歩いた……正直いってかなりきつかった

なんども魔獣にあつたりしたからだ……しかも会ったびにレナが腰を抜かす！！それはもうおばあ「うるさいうるさいうるさい」

かわいい声で怒鳴られた（＾ω＾）

まあ、魔獣は瞬 殺だっただけw

そんなこんなでエデンに着きました(^ω^)

「やっとなんか……」やっとなんかだね!」

俺のセリフががががg!!!

「それでレナの「僕の家はこっちだよ!」

狙ってやがる……この女! 狙ってやってる!

レナの家到着

えとなんか……え?

「ここが、レナ様のおうちでございましょうか?」

あるうえー? おかしいなー家にいったらウハウハだとおもったんだけどなー

「うん! そうだよ!」

おいおい、どんな冗談だよww ここ家じゃなくてww

「お城なんですけど? どういうことか説明していただけますね?」

「キー君wwなんで丁寧に喋ってるの? w」

「だからーここが僕の家だってw」

なん……だ……だと! ?

「もしかしてさ……レナって皇女?」

「皇女ってwwうん! そうだよ?」

僕っ子が皇女かぁーなんかいいな……!

「そんなことより早く入ろうよ!」

「はい!」

声が裏返った!!

「そんなに慌てなくてもw 今までどおりにはなしてよ! w」

「いいのか?」

「うんw そっこのほうがキー君らしいからw」

兵士が何人か寄って来る

兵士A「誰だ! お前は!」

兵士B「その青い髪は・・・皇女様ですか？」

「うん！僕だよ！」

兵士AB「し、失礼しました！今、門を開けます！」

「うわゝまじで皇女かよ・・・」

兵士A「ところでこの黒い髪の方は？」

「僕の命の恩人なんだ」とうしてあげて？」

兵士B「はい！」

「じゃあーキー君中はいろ？」

「おう！」

こうして俺たちはお城の中に入っていった・・・

く俺と皇女（笑）とく（後書き）

うわーなにこれw

駄文だね！

読みづらいつたらありやしない！

・・・感想ください・・・

（^ω^）（^ω^）（^ω^）

く俺と王様（苦笑）とく（前書き）

やっと・・・次から学園編にいける！

「俺と王様（苦笑）」

「キー君side」

城の中はとても綺麗だった・・・

城の中に入っすぐレナはお父さんに呼び出しを喰らっていた俺はというと

レナが「しばらく客間で待たせておいて！」と兵士に命じたので客間に連れてこられた！

いやーでけな・・・俺の部屋の何十倍あるんだよ・・・高そうな壺とかおいてあるしw

しばらく、俺は落ち着かなかった・・・

「レナside」

僕はというと・・・父さんに怒られてた・・・まあ分かってたさ！（ヤケクソ！

「ばかもの！今までどこにいつておった！」

「あうあうあう」

「あうあう　じゃ分らんわ！ばかもん！」

「ごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいm」わかつたわかつた」

絶対分かってないよ・・・クソ親父・・・ボソ

「で、どこいつておった？」

「森・・・」「どの？」

「うう・・・それは・・・」「答える！」

「・・・精霊の森・・・」

ちなみに精霊の森とは危険度が高い森だよ・・・

「精霊の森か・・・よく生きて帰ったな・・・今のお前なら命がいくつあっても足りない場所だろうに」

「うん・・・いつてみてよく分かった・・・（泣）」

「でもね、キー君がいたから大丈夫だったよ」

「あの客間にいるやつか？」

「うん！とつても強いんだよ！」

「そうか・・・まあお前を守ってくれたんだから恩人だから紹介しなさい。30分後にわしの部屋にくるようにいっておけ」

「はあゝい！」

「キー君 side」

「なぜだか俺は今王様の部屋の前にいる・・・」

「レナに事情を聞いたからお父さんが会いたいつて」と答えられた・・・まあ皇女を助けたんだし当たり前か・・・でもなんで部屋？w

「ギイイー大きな扉が開かれ王様の部屋にはいった・・・」

「俺はレナと一緒にはいって王様の前までいった・・・」

「王「君が娘をたすけてくれた・・・」「荒神鍵です」f mケンくんじゃの？」

「はい」

「今回は娘を助けてくれてありがとう。こいつはよく城をでてよく散歩しにいつての・・・」

「そうなんですか（苦笑）」

「おっと・・・話がそれたの、それでなにかほしいものはあるか？」

「えーと・・・そうですねー・・・お金・・・ですかね・・・」

「うむ、分かった、では金貨100枚でいいかな？」

「!!!!」「足りないかな？」

「いえ、多すぎてびっくりです」

「そうか、してワシからのお願いがあるんじゃが……娘と学園にいつてくれないか？」

「……レナ皇女とですか？」

「うむ」

えー学園かーだるいなあー宿題とかあるんだろうなー王様のお願いだししょうがないかあ……

「分かりました……」

「ありがとう！では学園の手続きをするから明日またきてくれるかの？」

「はい……分かりました」

その後金貨100枚をもらって城をでた

＼王様side＼

わしの目論見はうまくいった……

最近娘を狙うやつも増えてきたので、誰かに護衛を頼もうかと思っていたのだが……

「あの少年なら大丈夫だろう……多分」
結構適当な王様だった。

く俺と王様（苦笑）とく（後書き）

次回からはやつと学園編だよ！

創造能力使っらしいよ！

感想が10件以上きたら次の話投稿しようかな！（笑

俺と学園（だるー）と

＼キー君 side＼

俺は王様に呼びだされた後豪華な部屋に連れて行かれた。

どうやら学園には寮があるので明日からはそちらになるようだ。今日一晩は泊めてくれるらしい！

正直、金貨があるしそこまで心配はしてなくてもいいんだが・

・俺はご好意に甘えることにした。

明日から俺の第二の学園生活が始まる！

そう思うと不思議に寝つけなかった・・・

「俺は小学生か（苦）」

一人でツツコミをいれる・・・

＼レナ side＼

僕はいつもどおりに自分の寝室で寝たのだが・・・寝れない！

「僕はどこの小学生だよ！」

自分で自分にツツコミをいれる・・・

しばらくするとやっと眠気が襲ってきて僕は眠りについた・・・

「おやすみ、キー君」

そついうと恥ずかしいが、なぜか嬉しくもあった。

~~~~ザ・ワールO!そして時は動き出す……翌朝……

キー君side

「……知らない天井だ……」

俺は作者が一度はいつてみたいことをいい、起き上がる。

コンコン……ドアのノックになる……正直でたくない……

・眠いし……今何時?7時かー学園は8時30分からだったな……

・

「キー様起きてらっしゃいますか?」

兵士Aだな……

「起きてますよーどうしました?」

A「朝ごはんができましたので一階の食事処まで来てくださいね」

「わかりましたー」

しょうがない、起きるか……

レナside

僕が食事処でキー君をまつて15分……やっと彼は来た!!

「キー君おはよう!よく寝れた!?」

「おはよう!それなりかな!」

「今日から学園だね!僕楽しみだよ!」

「あれ?レナって今まで通ってたんじゃないのか?」

「？ 通ってないよ？今まで危険だからって理由で通えなかったんだ……」

「あ、悪い！」

「フフ、キーは優しいね……」

なんとか距離を詰めようと君を抜かしてみた。

「そうでもないけどな……早くご飯食べよう？」

照れてるテレルww

「そうだねw食べようか！」

いろいろな食事を食べながら15分ほどで食べ終わった

僕は疑問に思っていたことをいう

「そつえばキーってなんの魔法が使えるの？」

「……あっ！なんだろう！？」

知らないよ！僕が聞いてるんだよ！

「まあ、多分学園にいれば分かるでしょ……魔力測定器あるし結構適当だった……僕w

~~~~~そして8時~~~~~

キーside

「さて、余裕もってそろそろいくか！」

場所も聞いたし！城の近くの町のことも教えてもらったし！分からないことあればレナに聞けばいいだろう！

「うん！僕もいく！」

当たり前だ！

さてさて、俺にはどんな魔法が使えるのか……

~~~~~15分後学園到着~~~~~

キー side

俺とレナは学園に入った・・・宿題でるのかな・・・はあ・・・鬱だ死のう・・・

異世界に来る前はほとんど宿題どころか勉強もしたこともない！これが俺の自慢だ！・・・そんな哀れな子を見るような目でみないでくれ・・・

受付嬢？見たいな人がいたのでとりあえず学長室への場所を聞く・・・

「すみません、学長室ってどこにありますか？」

「えっと・・・どのようなご用件ですか？」

「王様からなんか言われてませんか？」

「！！ああ、あなたがたでしたか！」

うん、俺たちだから早く場所教えれ。

「私、受付のマリア嬢と申します以後お見知りおきを。」

しょうがない、名乗るか・・・

「えと、俺はケンアラカミです。宜しく願います。」

「あ、僕はレナフォルスです。宜しくね？」

「学長室まで案内しますね」

「願います」

ふう、やっとか！

~~~~~学長室到着~~~~~

俺たちは転入手続きみたいなのを出して、無事入学することができた。

それでクラス編成のテストがあるらしいので今からやるらしい・・・
・さっそく勉強かよ・・・っと思ったがどうやら魔力と属性を調べらしい。

ちなみに学長の名前はレノア「ジョセフさん　だそうだ。男の人だよ！」

ジョ「じゃあ最初はレナお嬢からです、この水晶に手を添えると魔力が出ますので」

「うん！やってみますね！」

レナは魔術師って威張ってたからなーそれなりにはあるだろうww
ちなみに普通の魔術師で1000らしいよ？w

レナが手を添えた瞬間みんなが固まる・・・

ジョ「魔力・・・5万・・・すいません故障のようです」

「えー！じゃあ新しいの持ってきてヨ！」

もういちど図りなおす・・・

「魔力値は・・・3万5千・・・先ほどよりは落ちましたが・・・

・・・」

3万5千とかwwwちーとwww350人分www

「えと・・・気を取り直して・・・次は・・・ケン君！」

「はいはい、触れますねー」

んー水晶が示す数字はつと？

「魔力無限か」

ジョ「そんな馬鹿な・・・」

俺は馬鹿じゃねえww阿呆だ！

ジヨ「次は属性です・・・まずはレナさん・・・」

違う水晶に手を添えるらしい

「僕だね！えい！」

「はい、レナさんの適正属性は風、光、無、水ですね」

「そうなんだ！」

レナが嬉しそうな声を上げる・・・

てか・・・そうなんだって・・・知ってるんじゃないのかよ・・・

・

ジヨ「次、ケン君！」

「はい、っと」

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

あれ？何も起こらない・・・

ジヨ「て、適正属性なし・・・」

何・・・・・・・・だと！

しょうがない！奥の手段！秘儀！創造能力！

全属性の魔法を使用可能に！

とたんに水晶が光りだす・・・それも眩しい位に・・・

ジヨ「・・・・・・・・魔術適正・・・・・・・・え？全部？」

「みたいです」

ジヨ「これにて編成試験終了。結果は30分ほどまっとれ・・・」

終わりらしい。

それにしても創造能力って卑怯だね！

さつき神にきいたら体の内臓とかも創造できるらしいよww

てか、自分の完全な体を思い浮かべると傷とかも直るってさ！

俺と学園(だるー)(と(後書き)

かんそつつつつつつつつつつつ

く俺と学園生活（楽）とく（前書き）

このお話はフィクションです。

そういえば魔法使ってないなあー

まあ学園で習うことにすればいいか（笑

俺と学園生活(楽)と

~~~~~前の話から45分位たった後~~~~~

「キー君side」

いつまで待たせる気だ……お、やっと来た！

ジヨ「結果がでたぞ！」

「ほう……で、どうだった？」

ジヨ「うむ、実はな……その、とてもいいくらいだが……  
だな……」

早く言え！するどい眼差しで俺が睨む……それに気づいたかの  
ように一気に喋るジヨセフさん

ジヨ「うむ、ちょっとクラスの施設がどれも空いてなくてな……  
一番下のFクラスになったんじゃ……」

レナ「ええ！僕たち最低ランクですか！？」

ジヨ「いや……さっきの成績などは良い……むしろ良すぎる位  
なんじゃが……スマヌ！」

ジヨ「まあ、Fクラスでも他の設備に移ることはできるんじゃが……  
」

「どうやるんだ？」

ジヨ「まあ……「戦争」を仕掛けるんじゃよ」

「戦争？ってなんだ？」

ジヨ「まあいうなれば魔力戦争とでもいうかの……詳しい説明  
はこれを見てくれ」

俺は学長から受け取ったパンフレットを見てみた……あれ？

「……学長……これ俗に言うエ」「おっと！失礼！これ  
じゃないこつちだこつち……！！早く渡さんか！」

強引に奪われてしまった・・・ッチ

そして俺は渡された紙の方を見る

えと・・・なにになに・・・レナと一緒に覗き込む・・・

「魔力戦争とは・・・」

一、原則としてクラス対抗戦とする。担当教師の立会いにより、戦争が可能となり勝負は学年主任の立会いのもとでのみ可能」

f m f m、まあ闇討ちはなし・・・ってことが・・・

・

「二、戦争の勝敗は、クラス代表の敗北を持つてのみ決定される。

この勝負に対し、教師が認めた勝負である限り、経緯や手段は不問とする。」

f m、代表が負けを認めなければおkらしいな・・・

「三、クラス別に行われるクラスとクラスの魔力を用いた戦いで、上位のクラスに勝てばそのクラスと設備を入れ替える事が可能（上位クラスは宣戦布告を断る事は出来ない。」

おお、これはいいね！

これなら勝てばSランクの設備も手に入れれるのか！

「四、勝敗が決した場合、負けたクラスは3ヶ月の間自分達から戦争の申し込みはできない」

勝てば官軍ってかw

・  
」

「僕は構いませんよ」

ジヨ「ありがとう、ではこれにて転入手続きを終わる・・・今日から我が学校でがんばってくれ！」

レナ・俺「はい！」

と、いうことで学園生活が始まる……

そうだ！いい忘れてたがクラスのランキングはSからFまである！  
魔力戦争つてのも面白そうだしな！案外楽しめるかもしれない！

くくくFクラス到着くくく

あの学長……いつか殺ス……なんで場所教えてくれないんだ  
よ……

おかげで10分もさまよったじゃないか！

「ふう……やっとついたな！」

「そうだね！あ、僕の名前どうしよう……」

ああ、そういえばそうだったな……

「レナの部分はいいとして……そうだなクリスとかでいいんじゃないか？」

「うん！じゃあ僕の名前はレナ＝クリスだね！」

妙に嬉しそうだな……

違う小説書いてる人の名前じゃないんだからねっ！勘違いしないで  
よね！

「さて、じゃあ入るか！転校生扱いだし、先生も気を使ってくれる  
だろう！

「だね！」

そういつて俺たち二人は……Fクラスへと足を踏み入れた……

「……ぼろっ！」

つてか机みかん箱！……まあ戦争でもおこしてさっさといいいク  
ラスのを奪おう……うん

肩を叩かれそっちの方をみるとかわいい女の子がいる・・・身長は160ってとこかな・・・まあ上から80・65・85ってところか・・・なにがとは言わないが・・・

？「君たち転校生だよね！」

「おう！俺はケン」アラガミ ケンがキーって呼んでくれ」

「僕はレナ」クリス 宜しくね！」

「はい、えと私はミラ」フォンよ！ 宜しくね！」

「じゃあ、ミラ俺たちは担任の紹介があるからいくよ」

ミラ「わかったわ」

さあ・・・今日から俺たちの学園生活が始まる！いろいろがんばろうか！

く俺と学園生活（楽）とく（後書き）

いかがでしょうか・・・  
クリスマスすいませんでした・・・  
感想いただけると幸いです。

く俺とキャラクター紹介（えー）く（前書き）

とりあえず、現時点での能力とか書いていきます

名〓名前 能〓能力 学〓学園のクラス 魔〓魔力 属〓使える属性  
後は身長とかかな・・・

## ～俺とキャラクター紹介（えー）～

### ～キャラクター紹介～

名：荒神鍵

説明

異世界の転生させられた本作の主人公、これから彼は何と戦い何を  
得ていくのだろうか・・・

能：創造能力（自分で作りたいものを作ったりできる、かなりの応  
用が利く 例：自分に能力を付けたり宝具など）

身体能力強化（トレビゾの中で一番強い魔獣の三倍の身体能力  
を持つ）

不老不死（死にたいときに死ねる。）

魔力無限（使える魔力が無限になる）

学：Fクラス

属：全ての属性（創造能力を応用した）

年齢：17歳

身長175cm 体重60kg 黒髪黒目 ルックス：上の中か

ら上 100人95人が振り向く美少年（後で分かったことだがそ  
の中に百合が5人いたらしい）

性格：女の子には基本優しい、ちょっと負けず嫌い

名：レナ＝フォルス

説明

ケンを森で見かけ襲い掛かるヤーに腰を抜かす皇女兼僕っ子、だが膨大な量の魔力を持ち多彩な属性を操る魔法使い、ケンに対して恋心を持ち始める……

能：????の加護（そのうち登場）

???（そのうち登場）

作者の嫁（作者からいろいろな気遣いがもらえる）

学：Fクラス

魔：3万5千 普通の魔法使いの平均は千

属：風、光、無、水 魔法の属性は火、水、風、土、無、光、闇、  
???がある。 ???はそのうち登場

年齢：16歳

身長：150cm 体重：……重くはない！とだけいいつつおこつ 蒼髪蒼目 ルックス：上の上 作者の好み！……サーセン自重します。

胸：ひんにゅー ヒップ：ふつー ウエスト：けっこー細め

性格：少し子悪魔チックなところがある、ドジっ子、作者の嫁！ケンにはやらん！……おっと失礼。

学長

名：ジョセフ

説明：ケンにエロ本を渡してしまい……後になって脅される……

……後はどうでもいいだろ……こんなおっさん……とい  
うことで以下略ー

読者にいう！後はいいだろ？これにて終わり！  
知りたい人の情報あつたら感想で受付ます・・・！

ゝ俺とキャラクター紹介（えー）ゝ（後書き）

レナかわいいよレナ（＊´ ㇿ ｀＊）ハアハア・・・  
さて、いつか幼女を出したいな！

あれだね、実は11月18日は俺の誕生日なんだ・・・！  
レナに祝ってもらいたい・・・

く俺と自己紹介(しばく!)とフラグ(誰の?)とく(前書き)

サブタイなげえええええwwww

誰のフラグかはみてくれればわかります!

「俺と自己紹介（しばく!）とフラゲ（誰の?）と」

「キー side」

教室がざわわしていたのが、先生がくると静かになった……  
先「今日はみなさんのクラスに転校生が来ました」

普通だなー

先「入ってきて」

俺とレナが教室に入る……

俺とレナは自己紹介をする

「俺は荒神鍵よろしく」

まあー無難だろ

「僕はレナ、レナ」クリスですよろしくお願いします」

先「では、なにか質問があるやつ手をあげる」

お約束だな……

「はいはい!!」

金髪のやつが手を上げる……

「レナはどんな男がタイプなんですか？」

教室が静まる……後でコイツしめる♪

「久しぶりにレナ side」

僕のタイプか……んーどうなんだろ……とりあえずケン君みたいな人って答えておけばいいかな？

「んー良くわからないけどケン君みたいな人かな？」

いった瞬間……教室が黄色い声援に包まれる……

あるえー？何かおかしいこといったかな？首をかしげる……

そういえばケン君の顔もおかしい……

くキー side }

レナのやつ・・・今なんていった？

俺みたいなやつがタイプだと・・・これはフラグか！？

金髪「そ、そうなんですか」

レナ「うん、多分！」

先「ほ、他に質問あるやつ！」

ミラ「はい！逆にケンはどんな子が好みなの？」

えー俺ですか？ミラしめるうー♪

「んーとりあえず今は僕っ子で身長が150cmくらいの蒼い髪の子かなー」

レナが顔を真っ赤にする・・・え？

そっぴや、こいつ・・・全部の条件にあってますね。これが作者の加護なんですね。

ミラ「ソ、ソウナンドー」

片言じゃねえか・・・！うはwwwテラはすかしすwww

後は適当に何個か質問が来たが、適当に答えておいた！

俺とレナは先生に指定された席に座った

俺の隣はあの金髪野郎でレナのとなりはミラだった！

金髪が自己紹介したそうにこちらを見ているどうしますか！？

1、断る

↓ 2、させたげるwww

しょうがないさせてやるか・・・

「俺の名前はレンだ、よろしくな」

「おう、よろしく」

レン「お前魔力量と属性なに使えるの？」

「俺か？俺は魔力量は無限？で全属性が使えるよ？」

レン「で、本当は？」

うそじゃないのに……

「まあ、そのうちな……」

めんどくなつた、魔力戦争が来たら証明できるだろう……

～作者side～

さてさてそろそろ戦闘シーンが書きたいZE！

という事で今回は一カ月後で魔法の授業とかを受けた後にします！  
ちなみに訓練とかもありましたがケン手加減してました！

次回で戦闘の前くらいまでに行きます！

そして次々回で戦闘開始予定！

てか今回短いね！

まあ、こんなもんだろう！

自己紹介させただけだしね！

別に言い訳してるわけじゃないんだからね！

レナ……セリフ少ないな……作者の加護を使うか……！

次回！レナセリフ多目！……だといいなあ……

く俺と自己紹介(しばく!)とフラグ(誰の?)とく(後書き)

ちなみにケンはミラとレンをしばくの忘れてました  
ッチ!

感想などお待ちします。

ゝ俺と魔法説明（読者サービスww）とゝ（前書き）

ちなみに一カ月後の話です！

今回はキー君視点のみです。ちなみに会話はほとんどありません！  
ついでに戦闘は次の次になる可能性が！ww

## く俺と魔法説明（読者サービスww）とく

くく今回は魔法について紹介します！くく

くキー side く

あれから一ヶ月、俺はいろいろなことを学んだ！ちなみに俺はレナ、ミラ、レンとよくつるむようになった！

魔法の使い方だが、体の中にある「マナ」というまあ簡単にいうと魔力？ってやつを感じてイメージするといいんだってさ

ちなみに俺は簡単にこれができた！

他のやつはF組だからなのか結構時間かかってたwそんな難しくないだろw

ちなみに普通魔法を使うときは詠唱が必要だね！

そつえば適正がなくても少しなら使えるんだって！

・・・ああそうだ、レナが最初にいつてた魔法の属性なんだがもつと種類があつたらしい

正しくは、炎、水、氷、雷、土、風、闇、光 無があるらしい。

ついでに精霊魔法なんてのもあるらしい！（これは精霊と契約しないといけないらしい）

まあ各属性の簡単な魔法の説明しようか、俺優しいから説明も入れてあげるよ！

ちなみに俺は全部魔力を抑えてやってるからね！大体2割くらいに・

ファイアーボール…最も初歩の技。手のひらサイズの火の玉を出し

て、敵に当てる。

熟練者が出すと火の大きさから数までどんどん増えていく。

これが炎属性の基本の初級魔法さつ　ちなみに俺がやるとまあ軽く万は出せる！レナは数千が限界だったかな、Fクラスのやつで数十個、

レンは炎属性に適正だったらしく数百個だったかな？レンはBクラス並の魔力らしい。ちなみにミラさんは・・・Fクラス並・・・（ゴホゴホ

次は水属性

アクア・・・水魔法の基本魔法。水を出す。

俺がやると湖ががが・・・ゴホン　レナはまあ、俺よりはセーフなレベル！後の二人は水溜りくらいでたよ！俺腹筋崩壊wwwwまあ、どちらも適正が無かったみたいだししょうがないことなんだろうけど・・・べ、別にかわいそうなんて思っていないんだからね！

気を取り直して・・・次！氷かー

アイスニードル・・・氷を針状にし、相手に飛ばす、熟練者が出すと氷の大きさから数までどんどん増えていく。

これは・・・なんかねーとりあえずファイアーボールと同じようなことになった。これはミラが適正あったよ！後はks（ゴホゴホ

んと次は雷かー

サンダーボルト…雷系初級呪文。敵の頭上に雷を落とす。

俺がやったらおっきークレータできちったつてへ・・・痛い子を見るような目でみないでくれ・・・

他三人は適正なし！

なんか聞いた話によると一人につき本当は一種類しか魔法使えない

みたいだね・・・俺、人外・・・俺も欲張らないでおけば・・・！

次か・・・ハア人外・・・

土はー基本ー防御とかにーつかうんだってーえーハア・・・

アースウォール・・・岩の壁を作る。

俺やったら？んと天まで届けー　って感じになった・・・後はレンに適正ありかな・・・レンは炎と土らしい、普通だと二つ属性をもっているだけで珍しいらしい

つ、次！風！

ウインド・・・風を起こす

俺がやると・・・台風より強めの風がが・・・レナに適正あり！軽く台風！ww仲間だな！後は・・・ミラにも適正あったな・・・

後、闇と光と無は上級クラスじゃないと教えてくれないらしいからそろそろ戦争起こすかな！ww

俺は教壇でみんなに告げる・・・！！！！

「そろそろ戦争でも　や　ら　な　い　か？」

正直俺一人でSクラス潰せるんだ・・・うん・・・まじ人外・・・

ミラ、レン、レナが同時に喋る

「「「それもいいかもね！！」「」」

普通に納得されたな・・・！

「で、どこのクラスに行く？」

レ「僕はとりあえずくらいいいと思う」

ちなみに光と闇と無を覚えてくれるところもC以上だった気がする・

・

ミ「まあ、くらいいならレナとケンいるし・・・楽勝でしょ」

レン「そうだな！」

クラスメート全員がなつとくした！！ノリがいいのこのクラスのいいところだと思う・・・ノリだけ「は」 いいからな・・・

「さて、代表は誰にする？俺はレンがいいと思うんだが」

Fクラス内では3番目に強いしな・・・

レン「え？俺？まあいいけど？」

「おし！決まりだな！w」

よし！がんばるか！

く俺と魔法説明（読者サービスww）とく（後書き）

感想でも くれ ない か？

おいおい、俺は読者だって喰っちまう男なんだZE？

いい忘れてましたが魔力検査などのときの属性と一緒に考えてもら  
っていいです。

ただ、火が炎とかになっただけなんで・・・

く俺とジャンケン必勝法（勝てるぜ！）とく（前書き）

サブタイには特に意味はありません！  
今回はちょっと短め！

「俺とジャンケン必勝法（勝てるぜ!）」と

「キー side」

はい！皆様前話ぶりです、みんな大好き荒神鍵ことキーでございます！

・・・気持ち悪いから普通にはなすぜ・・・

とりあえず宣戦布告をしに逝くんだが（逝くつてのは宣戦布告しにいったやつが大抵ボコボコになってくるからっていう意味  
んー誰が行こうか・・・ミラでいいかー・・・w

鍵「ミラ！宣戦布告をしに逝ってくれ！」

ミラ「なんで私なんだよ！ジャンケンで決めようよ！」

鍵「ただのジャンケンでもつまらないし、心理戦ありでいこう」  
俺の秘策！見せてやる！

ミラ「わかった。それなら私はグーを出すよ」  
ふっ・・・甘いぜ！ミラ！

鍵「そうか。それなら俺はーお前がグーを出さなかったらブチ殺す」  
最大限の殺気を放ちながら・・・笑顔で！

ミラ「ひいひいひい！！！」

鍵「ジャンケンポイ！」

俺はためらずパーを出す・・・当たり前だろ？  
そしてミラはグーを出していたwww

鍵「じゃあ俺の勝ちな」ということで逝って来い！」

笑顔って大事だね・・・人を和ませるといふか・・・なんといふか・・・まあ俺がやるとみんなが怯えるけどね」

ミラ「おにいいいいーあくまああっああ」

ミラはC組に走っていった・・・いい子だな( ^ω^ )

ミラside

私は今・・・C組の前にいます・・・うええーん・・・  
でもこういうときは勇ましくいったほうがいいわよね！

ドアに手をかけ一気にあける！

ミラ「たっ、たのもー！しえんしえん布告しにきた！」

・・・ヤバイ・・・死のう・・・

Cクラス生徒A「なんだと！Fクラスの君たちが俺たちに宣戦布告  
だと？笑い話もそこまでにしとけよ？」

殺気を出しながらCのAがいう・・・だが・・・できなかったとい  
えば私はあの・・・鬼で悪魔なやつに殺されてしまうだろう・・・

ミラ「本気よ！」

CのA「分かった！受けてたとう！」

私が殺気に動じてないと分かったのだらう了承してくれた・・・  
そして、その後私はCクラスのほとんどの生徒からボコボコにされ  
Fクラスへと帰っていくのであった・・・なんで私がこんな目に・・・

くくミラがFクラスに戻ると・・・くく

くレナsideく

あらー見事にミラさんがBOKOBOKOですね

ちなみにミラさんは実力的にはBクラス並だったと思いますが多勢に無勢だったのでしょうか・・・

まあ、了承して貰えなかったら死んでいたかもしれないのでボロボコですんだだけで良かったんだらうね！w

僕じゃなくて良かったよー本当に・・・僕だったら半分倒したぐらいでギブかな・・・

まあ、戦争の日は明日だ！がんばろう！

くキーsideく

ミラはボロボコで帰ってきた・・・Cクラスのやつめ許さん！！  
誰のせいでミラはこうなったんだ！

ミラ「元をたどればケンだよ・・・ガクッ」

おっ、死んだかな？っち生きてやる！

俺は演技がかかった声で・・・

「ミラ・・・敵はとるぞ！」

ミラ「おい！勝手に殺すな！」

ツチ！まあいいミラをからかうのはここまでにして明日の作戦をい  
うか・・・

鍵「みんな！聞いてくれ明日の作戦だが……でいこうと思う！」

Fクラス全員「ええええええええ！！！！！！！！」

そこまでびっくりするような内容じゃないだろ！

まあいい！明日はほどほどにがんばるぞ！

く俺とジャンケン必勝法（勝てるぜ！）とく（後書き）

ジャンケンに勝つには脅しが必要ということですね！

ただ、気をつけるべきところは

殺気を放つということを気を付けないといけないですね！

今回はネタに走りました・・・感想などください！

次回！ついに戦争！？ポロリはないよ！

感想ください！

く俺と初めての戦争（おーいえ）とく（前書き）

途中レナ暴走！

「俺と初めての戦争（おーいえ）と」

「さてさて、そんなこんなで魔力戦争当日」

「キー side」

今日は戦争当日……俺たちは防御魔法が発動している訓練所へと足を運んだ

「でけえーな……」

レナ「おつきーいねえーお城と同じくらいあるんじゃない？」

お前の家は……まるでジャングルだね！

魔力戦争の勝利条件は簡単！

相手の代表を気絶または相手の代表者の魔力の枯渇だ！

ちなみに相手の場所は分からない、なので探して気絶させるしかない……

後はー殺すのはなし、まあ当たり前だが……俺も殺さないようにがんばらないと……

各チームの選手がスタート地点に着き……魔力戦争が始まる――

先生「では、始め！」  
始まった！

今回の作戦は至ってシンプル……なぜなら俺とレナだけで代表を仕留めるというものだからだ！

その間、Fクラス全員でレンを守る

ちなみにFクラスの平均魔力は1000ほぼ平民並み……Cクラスは2000ほどだから約倍の差がある……だが、Fクラスの人数は50人でCクラスは35人！

人数の利はこっちが上だ！

おっと！読者に説明中に敵が来たようだ！

CのA「サンダーボルト！」

無詠唱かよ！俺たちまだ習ってねえよwww

まあ俺もちよっとだけ魔力を解放するか……んー1000分の  
ーくらいでいいか

「燃やせ！ファイヤーボール！」

俺も短縮詠唱くらいはできるんだ！よし、Cになったら無詠唱教わ  
りたいな！

ちなみに敵のサンダーボルトはちよっとだけ地面に穴が開いた程度  
だった……よええな……

俺のファイヤーボールは大体数を数千に抑えておいた

俺の放ったファイヤーボールFBは無事敵に被弾

ドガガガガッガガガガッガガガガッガ……地面削りす  
ぎだな……

CのA「なんだよ……この魔力！ほぼAクラス並じゃないか！！」  
CのAは倒れた！ケンに1の経験値！

1000分の一でAクラスかー弱いなーww  
俺が規格外なだけが……

これで、敵の戦力は34かな？

あ、あっちで強風が……何人巻き込んだかな……

レナside

「風よ！ウィンド！」

よし！3人倒した！代表はどこかなーフヒヒw  
っちえないや・・・どこに隠れてるのかな？僕が気絶させてあげるよ・・・

「アハハハハ、隠れてないでできなよ」  
「ヤバイ！楽しい！」

「・・・レナ・・・俺だ・・・」

「！！！！な、なんだキー君じゃまいか！」

・ 噛んだ・・・さっきの笑い方とか聞かれたかな・・・うう・・・

「レナ、何人しとめた？」

「ぼ、僕は三人かな」

「そうか、じゃあ後は15人だな」

「！！そんなに倒したの！？」

「おう・・・だが代表はなしだな」

「代表って胸にバッジ付けてるやつだよな？」

「そうだな」

「よし！ここからは二人で行動するか！」

「うん・・・分かった／＼」

そんな、キー君ったら大胆・・・でもそこも・・・ってなに考えてるんだろ僕・・・落ち着け！落ち着け！

（キー side）

レナの顔が赤いが気にしないでおう・・・それにしてもさっきのレナ怖かったな・・・

あれは戦闘狂って顔だったもん！

お、こっちに向かって10人・・・Cのやつが走ってきたなちなみに俺たちFクラスは初級と中級の呪文しか習ってない・・・  
Cは上級も習ってたかな？取得してるのとは別だけど・・・

おつ、一人は使えたみたいだな・・・ちよつと800分の一まで下げてみるか

C生徒「炎よ！踊り狂え！そして切り裂け！フレイムダンス」

お、上級だが弱いほうしか使えないのかな？

俺はーなにがいいかなーよし

「雷よ！サンダーボルト！」

ズツダアアアン！すごい音だね・・・

C「上級が下級魔法に負けるなんて・・・お前何者だ？」

「俺は俺だそれ以下でもそれ以上でもねえよ」

うわーはずかちいーw

C「・・・そうか俺がC組の代表だ・・・このバッジをもっていけ・・・」

代表だったんですね・・・

「おつ、お前名前は？」

名前だけでも聞いておこーと

「俺はレインだ・・・」

「俺はケンだ宜しくな」

「おう」

嫌なやつではないな・・・

こうして俺たちの勝利で初めての戦争は終わった・・・

く???sideく

?「あいつがケンか・・・なるほど化け物だな・・・」

??「うん!でもCより上のクラスには私たちがいるから大丈夫だね!」

?「そうだいいがな・・・」

くsideく

さてさて勝ったからCクラスは俺たちの施設だな!

どれどれ?どんな感じかな?

やべえ・・・豪華だ!

これはもつと上のクラスのもいただかないとな!

まあ、しばらくは無詠唱と光と闇と無属性を覚えなといけけないがな!

覚えたらすごいこーつとw

それまで B・A・S のやつら・・・首を洗って待ってるよ？

く俺と初めての戦争（おーいえ）とく（後書き）

うちの・・・うちのレナが壊れた！

俺のレナがこんなにかわいいわけがない！いやかわいいけどね？

さて、ヒロインをもう一人出そうと思いますがどんな子がいいかな？

感想でこんな子を出してください！とかあつたらぜひお願いします！

感想お待ちしてます！

ゝ俺と過去話（過去にはとられない俺と僕）とゝ 番外編（前書き）

今回は番外編？つか過去話みたいな感じw  
ちよつとシリアス入ってるかなw

〈俺と過去話（過去にはとられない俺と僕）と〉 番外編

ここでC組になったし二人の男女の過去の話をしよう……

〈男side〉

その男は孤独だった……なぜかって？

期待されすぎていたからだよ……

そして絶対に期待を裏切らないように努力した！たまに死にそうにもなった！

だけど……一生懸命期待に応えようとしていた！

幸い彼には才能があった

何をしてもトップになるほどの才能が……そして自分が努力すればするほど他の人は離れていく……

それは彼が何でもできすぎて怖かったんだ……だから軽蔑した！いじめた！

……だけど彼は怒ることもなく自分たちを友達としてみていた……

さらに、彼はその「友達」が他校に絡まれたときも絶対に助けてくれた……

周りは見なかったことにするだけでも……彼は絶対に助けた自分では不良ぶってるけど彼はとてつもなくいいやつだった……そんな彼はもう……この世界にはいない……

なぜなら……トラックに引かれて異世界にいつてしまい、俺TUEEEEEをしてるからだ……

（女 side）

彼女は自分の身分も気にせず誰にでも同じように接することができる人だった……

町に出ては商店に顔をだしたり……町の子供と遊んだり……

だが、それはいじわるな貴族にやめさせられた……

どうしてかって？それは自分の身分も気にしなかったからだ……貴族は自分の利益しか考えない……だから自分だけ見てほしかったんだ……

だけでも彼女は誰にでも同じように接した……

その結果、商人は国から追い出され……町の子供は暴力を振るわれ……ひどい場合には奴隷にもさせられた……

彼女は全てに失望し、絶望した……

そして彼女は人に心を開かないようになっていた……ある少年と出会うまで

ある日、彼女はいつものように森にきていた……ここには誰も人がいないから……誰もひどい目に合わないから

ここには魔獣がでるが彼女は一応魔法を使えたしかし、数の暴力とは恐ろしい

猿型の魔獣5、6匹に囲まれてしまった……

彼女は強い魔物5、6匹に囲まれると怖くて、柄にもない叫び声をだしていた……

ここは絶対に人が寄り付かない場所……

逃げようにも腰が抜けている……所謂絶体絶命ってやつだ

あの時はパニックでも起こしていたんだろう……

妙なテンションで死を覚悟していた

だが、突然彼が現れた

黒い髪に黒い目・・・宝石のように綺麗だった

彼は何かを喋り、素手で猿に向かっていた

無茶だ、僕はそう思っていた・・・

ドオオオオン・・・僕は目を疑った、それは森の数十本を倒し、それでも何十mも飛んでいく魔獣を見たからだ

猿は恐ろしくなって逃げたのだろう・・・もう一匹にもいない

そうだ、彼にお礼を言わないと！

僕は、彼を見ると言葉が話せないことが分かったので翻訳魔法を掛けた

そして僕は彼から聞いた一言目でなんだかとても良い気分になり彼には本当の自分で居たい

・・・もういちど誰かに心を開こうと決心した

そして誓った・・・僕は彼で練習して、みんなにももういちど心を開こうと・・・

そして願った・・・彼とずっと一緒に居たいと・・・

そのためなら自分の身分もいらないと

だけでも組になった今でさえ、彼は僕のことを振り向いてくれない・・・他の人よりは大切にしてくれるが

それはこつちの世界で始めてであったのが僕だからだったからなのだろう・・・

でも僕は諦めない絶対に彼を自分のものにしたいから♪

なにより、こんなに彼のことが好きだから・・・

く俺と過去話（過去にはとられない俺と僕）とく 番外編（後書き）

どうか嘆かないで。

世界があなたを許さなくても、私はあなたを許します。  
どうか嘆かないで。

あなたが世界を許さなくても、私はあなたを許します。  
だから教えてください。

あなたはどうしたら、私を許してくれますか？  
byフレデリカ

今回の話に合いそうな詩をひとつ・・・

ゝ俺と化け物（俺のことですね分かります）とゝ（前書き）

13 話目投稿！ちなみに毎週金曜は更新できません。

「俺と化け物（俺のことですね分かります）と」

「鍵がCクラスにはいつて最初の授業」

ども、みなさま俺です。誰かって？鍵だよ！鍵！

俺たちはF組からC組にあがって先生が変わった……かなりの熱血だね……

ちなみに生徒からは鉄人とよばれている。理由？んなもんしらねーよ！

「えと、俺はお前らのクラス担任になった鉄衣<sup>テッイ</sup>だ！これから宜しくなー！」

「「はい」」

「さて、みんなの実力を測るために次の時間は訓練所にて模擬戦とする！」

中にはええーやッターなどの悲観、歓喜を表す言葉も上がった……が

「つべこべ言わず10分後自分の得意な武器もって集合だからなー！」

「「はあーい」」

「キースサイド」

正直、模擬戦とかやつても意味ないだろ……

だって「元」Fクラスだぜ？今はCクラスだがそこらへんの一般市民なみの魔力しかないのに……

まあ授業だしいくか……

「レスサイド」

模擬戦か……誰か相手になる人っているのかな？

僕はともかく鍵の相手になりそうな人は絶対いないしね……  
まあ、いきますか……

## 訓練所

「キースサイド」

先生に数字が書いてある紙を渡された、ちなみに俺は18番、レナは37番

「さて、ではこれより模擬戦を始める！」

「「はい」」

「では、渡された紙に書いてある番号を呼んでいく呼ばれたものはステージにでてこい！まずは17番と12番！」

結構適当なのかな？かな？

「「はい」」

二名の生徒が出てくる、名前知らないからAとBにしておくか！

「では、開始！」

A「うおおおー！！！」

どうやらAは剣で戦うタイプのようなだ！……いい剣筋だな  
対するBは……ふむ、典型的な魔法使いタイプだな……

B「雷よ、我に力を貸し、敵を討て！サンダーボ」

ふむ、それなりのスピードだ……だが剣に魔法ではかなり不利だな

もともと詠唱が必要な魔法使いはそれだけで接近戦にかなり弱くなる、これはAの勝ちだな

俺が予想していたとおり、木刀が魔法使いの首筋にあたる

B「……残念ながら俺の負けだ、降参する」

「勝者！17番！」

周りから拍手が巻き起こる、「12番惜しかったぞー！」などなど

「次2番と4番！」

これは二人とも魔法使いだから詠唱が早いほうが勝つだろう

「……二番のほうがかつたらしいなてか、無詠唱だ。それに  
なんか2番は……他のやつと「何か」が違う気がする

俺は終わった二番に声をかける

「おう、お疲れさん……えーと」

「……セツナよ」

「セツナか！おめでとう！」

「あなた……私が怖くないの？」

「なんで？」

意味わからん？これが今でいう電波系ってやつか？

「だって、私さっきからかなり魔力を放ってるのよ？私の半径5  
mくらいに来てるから感じてるはずなんだけど」

ああーさっきからチクチクしてるやつかー

「さっきからチクチクくらいは感じてるかな？」

「え……チクチク？それだけ？」

「ソレダケ」

「……そう、その正体を教えてあげるわ……私の魔力量  
が高すぎて起こってるだけよ」

「へえーどれくらいの魔力があるんだ？」

「・・・3万よ」

少女が悲しそうにいう・・・

「どう？これであなたも私から遠ざかる？いいのよ？化け物に遠慮しなくても・・・」

「誰が化け物だって？「私よ！」

「いつておくが俺は君の事は化け物だと思わないよ？」

「そんなの嘘よ！だって・・・みんな私を遠ざけるのよ？」

「そんなに自分のことを化け物だというなら俺の魔力を教えてやるのか？無限だよ！無限！どうだ！俺のほうが化け物じゃないか！？」

「そんなの・・・信じられるわけじゃない・・・！」  
「信じるよ・・・しょうがない魔力開放してやるか・・・」

「ちよつと魔力を開放するから見てろよ？」

俺は――――魔力を開放した

すると、何人もの生徒が気絶する、立っている生徒のほとんどはいきなり解放された魔力に対して足がすくんでいるようだ・・・  
「どうだ？」

「こ、これがあなたの魔力？」

「これで大体5分の一ぐらいだぞ？」

「なるほど・・・あなたのほうが化け物ね・・・」

「そうはつきり言わないでくれ・・・美女にいわれると傷つく・・・」

「なっ！何を言ってるのですか！貴方は！」

おっ！頬を染めた！これは・・・フラグ？

「キャアー！」

いきなりセツナが悲鳴をあげる

「！！どうした？」

「鍵！後ろ後ろ！」

目を手で隠した・・・

俺は嫌な予感をしながら・・・後ろを振り向く・・・デスヨネー  
ヤンデレ化したレナさんが鉈をもって・・・俺に振りかぶった！

「ぎゃあああああ嗚呼あああああああああああああああ  
あああああああ」

訓練所にその日一番の悲鳴が流れた・・・あれは、俺じゃなければ死ねるレベルだったね、うん

もう少しレナさんには 自重 という言葉を大事にしてほしいものだ・・・はい、すいませんでしただから、鉈はやめて鉈はやめて  
――

アッ――――――

その日よりレナ、レン、ミラ、俺のグループにセツナが加わった

！どうやら俺といると安心できるらしい！嬉しいような・・・悲しいような・・・

ちなみにセツナの容姿は 身長150ないくらい、ヤセ型、まあ、幼女ってやつだ！口調は大人びているが・・・

ついでにほとんどの生徒が気絶したため、今回の模擬戦は次回へ持ち越しとなった！

く俺と化け物（俺のことですね分かります）とく（後書き）

幼女でしたー！

次は くッス っていうキャラを出したいが・・・

しばらく後になりそうだな・・・

では、みなさま感想など宜しくお願いします。

いつも見ていただきありがとうございます

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8188o/>

---

～ 俺と異世界転生 ～

2010年11月27日10時01分発行